

【環境】郷ノ浦港

長崎県は半島・離島から成り立ち、海を介して広範囲に生活・観光・産業の拠点が広がっており、交通ネットワークの拡充は重要であることから、その利便性・快適性・安全性の向上を図り県内はもとより県外との交流機能を強化することで、多様な産業活動の活性化を支援する。

また、当緑地に隣接する-7.5m岸壁(耐震岸壁)は観光客船の係船にも利用され休息緑地及び災害時の防災広場としての役割も担っている。

事業概要 : 緑地(トイレ、駐車場、休憩所、植栽など)

事業期間 : 平成8年度～平成27年度



郷ノ浦港



郷ノ浦港緑地完成イメージ

【統合】郷ノ浦港、勝本港、印通寺港

管内の港湾施設は、壱岐島の人、物資の流通拠点となっており、更には漁港としての機能も果たしている。現在は、老朽化した施設の補修や労働環境の改善、漁獲物の衛生管理・鮮度保持のための施設整備を行っている。



漁獲物の陸揚げの順番を待っている状況
(郷ノ浦港)



浮棧橋を増設したことで、順番待ちが減り漁獲物の鮮度低下を抑える効果が期待できる。



港湾施設は人、物資の流通拠点として日々利用されているが老朽化が進んだ施設（空気式防舷材など）が見受けられる。（郷ノ浦港）



老朽化した施設の補修・改良を行い、港湾機能を維持する。



漁船への乗り降りの際、干満差によって危険が生じている。（勝本港）



浮体式係船岸の整備により、危険な状況がなくなり就労環境が改善された。